

山本 理子 氏

「瀬戸内国際芸術祭」という出来事の生成とこえび隊の実践―実践理論を用いた観光研究の試み

瀬戸内国際芸術祭をはじめとする地域芸術祭に関する先行研究をレビューしたうえで、自身が立脚しようとする独自性のある理論提示をしている点が特に高く評価できる。実践理論の援用によって、芸術祭を所与のものではなく、人々の「実践」によって生成するものとみなす分析視角はきわめてユニークで、様々なアクターが複雑に関与する地域芸術祭を新たに捉え直す上で有効といえる。調査対象地域・組織に深く入り込み、精力的な参与観察調査を展開している点も評価に値するものだった。その一方で、発表時においては調査途中ということもあったのだろうが、具体的なデータ提示がなされなかった。そのため「出来事の生成プロセスに着目する」といいながら、この点が十分描き出されていなかった。しかしながら、先にも述べたように、目下、意欲的にフィールドワークをおこなっているとのことだったので、今後、調査結果を丁寧にまとめ上げることで、今回言及された理論を下敷きとした新たな知見の提示がなされ、地域芸術祭研究ひいては観光研究の発展に資することが大いに期待できる。

以上から、本研究発表は優秀賞にふさわしいと判断した。